

大会アピール

教職員のみなさん

私たちは、今日この場に集い、私たちが日々直面している困難さを共有しました。しかしその中でも、今を生きる高校生の成長していく姿を思い、教育に携わる者としての喜びと使命を分かち合うことができました。

貧困と格差は、子どもたちの学びと成長に大きな影響をあたえ、「学校に求められるニーズ」は多様化しています。しかし、多くの現場が、教職員の「熱意」によって支えられ、長時間労働はますます深刻化しています。青年教員が、勇気をもって府教委を提訴する事態も起きています。文部科学省で検討されている「1年単位の変形労働時間制」導入は、見かけ上の超過勤務時間を減らすだけで、長時間労働をいっそう拡大させるのは明らかです。

また、大阪では維新政治のもと、競争主義と財政縮減をねらう「学校つぶし」や「教育改革」、「教育産業の参入」もすすめられています。「評価育成システム」や、自己申告に対する校長の「指導」など、管理が強まり、多くの教職員が、自分の「評価」を気にせざるを得ない状況に追い込まれています。職員会議の採決禁止・人事の校長専決化は、教職員から「自分たちの職場をどうしたいのか」を問う機会を奪い、「リーダーシップ」を求められる校長も、職場の意見を適切に把握できず苦心しています。いま「民主的職場づくり」を行う工夫が、どの学校にも求められています。

人間は社会的動物であり、仲間とともに力を合わせることによって社会を発展させてきました。数値によって人と人とを競わせるしくみは、この営みに「他人と自分とを比べる物差し」を持ち込み、学習や成長、私たちの労働を「個人の達成物」に歪めてしまいます。そこでは、失敗やつまずきは「自己責任」とされ、励ましや支え合いがない中で、多くの青年が悩んでいます。このような人間の本質と相いれないことが強いられる中、今こそ、現場で教育にあたっている私たちが団結し、知恵を出し合い、実践をすすめていくことが求められています。

今、政府によって憲法9条そのものの改悪が狙われています。しかし沖縄では、「辺野古 NO」を主張する候補者があいついで当選し、県民の「不屈」の意志が政府の強引な建設工事をはばみ、新基地完成の見通しは立っていません。「勝つ方法はあきらめないこと」です。

私たちがつながり、ともに手をつなぎ、希望をもって歩もうではありませんか。

以上、決議します。

2019年5月18日府高教第90回定期大会